



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



真実の口(は何のために作られたのか)

映画「ローマの休日」で一躍観光名所になった「真実の口」は、海神トリトーンの顔が刻まれており、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会の外壁、教会の正面柱廊の奥に飾られている。

「真実の口」は、「怪人面」とも呼ばれる石版であり、まだキリスト教が普及していない頃の古代ローマの神の一人で、ただ単に下水溝のマンホールの蓋として作られたものである。



「うがった見方」とは

先日、テレビでコメンテーターが(疑うような気持で)「うがった見方をしようだが」と言っていたが、明らかに誤用である。「うがつ」を漢字で書くと「穿つ」。穴をあけるという意味であり、それが転じて「本質に迫っていく」という意味を持つようになった言葉である。

「穿つ」の語感が「疑う」に似ていることから誤用されるようになった言葉だが、以前の文化庁の「国語に関する世論調査」では、「うがった見方」を「(本来の意味でない)疑ってかかるような見方



長期投資仲間通信「インベストライフ」

をする」と答えた人が 48.2%、(正解の)「物事の本質を捉えた見方をする」は 26.4%だった(分からない等が 25.3%)。日本語は本当に難しい。

ハンカチとマリー・アントワネットの意外な関係

ハンカチの歴史は古く、古代エジプトの時代からあったといわれている。昔のハンカチは身分の高い人の持ち物とされ、三角形や長方形、たまご形など形はまちまちだった。

18世紀後半になって、マリー・アントワネットがハンカチの形が様々だったのを嫌ったのかどうか「ハンカチはすべて正方形に」と進言したことから、ルイ16世が「ハンカチのサイズは縦横同一とすべし」という法令を布告した。以後ハンカチの形状は正方形に統一されたのである。

申し子

「申し子」とは、元々神仏に祈ったおかげで授かった子のことをいっていた。霊力を持ったものから生まれた子という意味から転じて、ある分野でとくにすぐれた能力を持つ人をいうようになったのである。

例えば、水泳の達人(最近では池江璃花子選手など)のことを「水の申し子」と言ったりする。



アンデスメロン

語感から原産地は南米アンデスと思われるかもしれないが、まったく関係がない。メロンは果物の中でも害虫の被害が多くて栽培が難しかった。そこで種苗会社の「サカタのタネ」が丈夫でおいしいメロンができないものかと、日夜研究を重ねて昭和52年に開発したのが「アンデスメロン」なのである。

当初は、安心して作れる、安心して売れる、安心して食べられるをキャッチフレーズに「安心ですメロン」で売り出す予定だったが、ネーミングが今ひとつということから「心」を抜いて(メロンは食べるときに「芯」を取るから)、「アンデスメロン」として売り出したのである。

アンデスメロンは熊本、茨城、山形(庄内)が三大生産地



マツダ(MAZDA)(社名の由来)

マツダは旧社名を「東洋工業(株)」といていたが、1984年(昭和59年)に現社名のマツダ(株)に商号変更した。

「マツダ」の社名は創業者の松田重次郎氏の姓に由来しているが、英語表記は「MATSUDA」ではなく「MAZDA」である。これはゾロアスター教の叡智・理性・調和の神であるアフラ・マズダー(Ahura Mazda)に由来している。MAZDA 神を、東西文明のシンボル、自動車文明の始原的シンボルとして捉え、自動車産業の光明になることを願って名付けられたのである。